

第10次漁業センサス海面漁業基本調査結果速報（茨城県分）

1. 漁業経営体数

平成10年11月1日現在の県内の海面漁業経営体数は701経営体となり、前回の第9次漁業センサス（平成5年調査）から5年間に54経営体（△7.2%）減少した。

内訳をみると、個人経営体が676経営体で第9次センサスと比較すると52経営体（△7.1%）減少し、会社や漁業組合などの団体経営が25経営体で2経営体（△7.4%）減少している。

漁業階層の構成では、沿岸漁業層（漁船非使用、無動力船、動力船10トン未満等の階層）が638経営体（構成比91.0%）で海面漁業経営体の9割を占めている。この他、中小漁業層（動力船10トン以上1,000トン未満）は60経営体（構成比8.6%）、大規模漁業層（動力船1,000トン以上）は3経営体（構成比0.4%）となっている。

(経営体数の推移)

単位：経営体

	第7次	第8次	第9次	第10次
海面漁業経営体数	902	848	755	701
個人経営体数	870	811	728	676
団体経営体数	32	37	27	25

2. 漁業就業者数

漁業就業者（満15歳以上で自営漁業又は漁業雇われの海上作業に従事した人）数は1,634人で第9次センサスから259人（△13.7%）減少している。

この漁業就業者を年齢別にみてみると、59歳以下の就業者は減少しているが、60歳以上の年齢層は第9次センサスより153人（28.8%）増加して684人となっている。

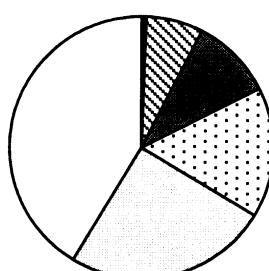
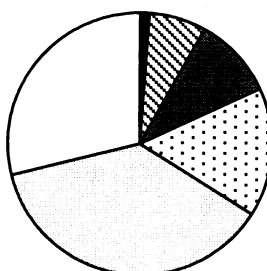
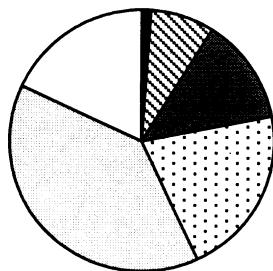
年齢層別構成比においても、60歳以上層の構成比が高くなり、これまでもっとも構成比の高かった50～59歳層を上回るようになっている。

(漁業就業者の年齢構成の変化)

第8次漁業センサス

第9次漁業センサス

第10次漁業センサス



漁業就業者年齢別構成

- 19歳以下
- ▨ 20～29
- 30～39
- ▨ 40～49
- 50～59
- 60歳以上

3. 漁船

各漁業経営体が調査期日前1年間に使用した漁船は821隻で、第9次センサスと比較すると、134隻（△14.0%）の減少となった。内訳は、無動力船10隻、船外機付船116隻、動力船695隻となっている。

(漁船数の推移)

単位：隻

	総隻数	無動力船	船外機付船	動力船
第7次センサス	1,232	42	207	983
第8次センサス	1,152	24	200	928
第9次センサス	955	13	139	803
第10次センサス	821	10	116	695

4. 漁業従事者世帯

漁業従事者のいる世帯（調査日前1年間に漁業に従事した者がいる世帯）についても、漁業経営体と同様に調査を経るごと減少し、今回調査においては第9次センサスと比較して171世帯（△20.2%）減少して675世帯となった。

なお、漁業従事者世帯を漁業雇われ専・兼業別に第9次センサスと比較すると、「漁業雇われのみ」「漁業雇われが主」の世帯は減少しているが、「漁業雇われが従」の世帯は第9次センサスよりも増加している。

(漁業従事者世帯漁業雇われ専兼業別世帯数の推移)

単位：世帯

	計	漁業雇われのみ	漁業雇われが主	漁業雇われが従
第7次センサス	1,672	758	838	76
第8次センサス	1,318	397	745	176
第9次センサス	846	278	502	66
第10次センサス	675	272	306	97

資料：県統計課